

水ける生

聖霊による刷新のために

東からも西からも聖なる方の言葉によって集められ

(バルク書4・37、5・5)

第一回アジア・オセアニア大陸コムニオ奉仕会会議が開催されました

全国コムニオ奉仕会コーデイネーター 小熊晴代

復活された主イエスに賛美と栄光、アレ
ルヤ！ この喜びに先駆けて、去る三月十
日〜十二日に東マレーシアのコタキナバル
で、カリス発足以来初のアジア・オセアニ
ア大陸コムニオ奉仕会会議が開催され、日
本の全国コムニオ奉仕会コーデイネーター
として私も参加してまいりました。

二〇一九年六月九日、聖霊降臨の主日に、
教皇庁のいのち・信徒・家庭省に所属する
信徒団体として新しい歩みを始めたカリス
(CHARIS、カトリック聖霊による刷新国
際奉仕会)。年が明けた二〇二〇年、日本
でも新制カリスにつながる全国コムニオ奉
仕会の新しい規約作成に旧全国奉仕委員会
の有志と共に取り組み始めた矢先によつて
来たのが、新型コロナウイルス感染拡大で
した。

世界中の時間が止まったかのようだった三
年余。この間、二〇二〇年三月には初代モ
デレーターのリバイク・ムンス氏
が家庭の事情で辞任、アルゼンチンのピノ
・スカフーロ氏が選任されました。国際コ
ムニオ奉仕会は対面で会うことが困難だっ

たこの期間に定期的にズームミーティン
グを行い、本来総会が行われるはずだった昨
年十月にようやくローマに集結することが
できました。その結果、総会は今年二〇二
三年十月二十九日〜三十一日開催に決定、アフ
リカ、アメリカ(南北)、ヨーロッパ、ア
ジア・オセアニアの四大陸のコムニオ奉仕
会で各部門の代表者選出が始まりました。

日本の全国コムニオ奉仕会が所属するア
ジア・オセアニア大陸コムニオ奉仕会では、
今年の一月末にズームミーティングを開催
し、ユース代表とミニストリー代表の候補
者を選出しました。事前に数名の候補者の
履歴がEメールで送られて来て、当日は賛
美と祈りの後に出身国と男女比のバランス
をとりながらチャットで投票するという形
でした。この段階でユース代表が二名、ミ
ニストリー代表二名が決定しました。ユ
ース代表は三十歳未満であること、また全国
コムニオ奉仕会につながっているミニスト
リー(特定の目的を持つ宣教活動) 団体が
ないため、日本から適切な候補者を推薦す
ることはできませんでした。

☆ 目 次 ☆

第一回アジア・オセアニア地区コムニオ奉仕 会議に参加して(小熊晴代)	1
アズベリーのリバイバルをめぐる	5
異言のカリスマの二体験(ジム・マーフィ)	6
聖霊による洗礼は聖三位一体を再発見させる (E・マンフィールド神父)	8
「カリスインディア」誌の記事からの学び 園における苦悶／イエスの復活	9

発行

聖霊による刷新

全国委員会

編集委員

中村友太郎
益田 薫

購読料(送料込み・年1600円)

購読申込み・振込み先

〒141-0021
東京都品川区上大崎2丁目
10-34-2-312

聖霊による刷新全国委員会
Email: ikerumizu.livingwater@gmail.com
郵便振替 00190-1-18878
口座名 聖霊による刷新全国委員会

いざ、赤道ほぼ直下へ

まだ肌寒い三月九日の朝に成田空港を出発しました。二〇一九年十月にローマで三週間に渡って開講されたカリス・リーダー養成コースに参加して以来、三年半ぶりの渡航です。直行便で六時間、聖フランシスコ・ザビエルが日本に来る時に舟で通過した南シナ海の上空を通過し、気温セ氏30度のコタキナバルに到着しました。

アジア・オセアニア大陸内で現在全国コムニオ奉仕会があるのは、以下の十七カ国です。東からニュージーランド、オーストラリア、日本、韓国、台湾、フィリピン、インドネシア、マレーシア、シンガポール、インド、スリランカ、アラブ首長国連邦、クウェート、バーレーン、カタール、サウジアラビア、レバノン。諸事情により欠席したスリランカ、アラブ首長国連邦、バーレーン、レバノン以外の十三カ国から十七名、先述のユース代表二名、ミニストリー代表二名のうち一名、計二十名で会

議が始まります。前日には半数以上の参加者が会場のホテルに到着していたようで、私は到着時刻の関係で参加できませんでしたが、日本の大会の講師として二度来日され世界中で預言的執り成しを指導しているシリル・ジョンさんやインド人リーダー（ユース、ミニストリー、シガポール、クウェート、サウジアラビアの代表など）を中心とするグループは、司教座聖堂で『イエスとの出会いを体験するすゝい』(incredible) タベ』と称するミニストリーを実施、数日後に投稿された教区のFBによると、一〇〇〇人の信者が集まり、賛美と礼拝、教えと証し、いやしと解放から祝福を受けたそうです。

第一日 集められる

イギリスやヨーロッパ式の建物の階数の違いに翻弄されながら受付にたどり着き、各国独特のアクセントありの英語が飛び交う和やか賑やかな昼食の後に、いよいよ会議が始まりました。

毎回のセッションは、今回の会議の準備を進めてくれた地元の契約共同体のメンバーがリードする賛美から始まります。初日のセッションでは、参加者の自己紹介と会議全体の流れの説明がありました。自己紹介では、数名が出身国や現在の奉仕の役割に加えて、「〇〇〇〇年〇月

〇日に、私は聖霊の満たしを体験しました、私の人生は大きく変わりました」と言われたのが印象的でした。「初めのころの愛」(黙示録2・4)を燃やしながら続けている彼らの顔は確かに輝いていました。

セッション終了後は、車に分乗して三十分、小高い丘の上の住宅街の一角にあるコタキナバル大司教区ジョン・ウォン大司教様の私邸に移動しました。午後六時には私邸内聖堂でウォン大司教様主式による開催ミサに与りました。それから同じく私邸内の食堂に移動して、大司教様と共に夕食をいただきました。この日は四旬節第三金曜日で、先述の契約共同体のメンバーが

準備してくださった数種類のおかずには肉料理はなく魚介類や日本の厚揚げのような大豆製品が中心でしたが、野菜もたっぷりでもとてもおいしく、大司教様もてなしの心で出してくださったワインもいただき、ぜいたくな小齋日となりました。

第二日 選び出す

囲みにあるとおり、カリスの規約に従い、祈りと識別の内に必要な人選が投票によって行われました。一番時間がかかったのが調整チームの選出で、七人全員が投票権を持つ十九名の参加者から三分の二、つまり十三票以上を獲得する必要があります。教皇選挙のコンクラーベの規則と全く同じで、根気強く投票を繰り返すこと六回、私自身を含む七人が選ばれました。

午後六時には司教座聖堂に移動、四旬節第四主日のミサに与りました。主任司祭と共同司式されたミニストリー代表のポビ―神父様のもとには、ミサ後、前々日の『すゝいタベ』に参加

したと思われる信者さんたちが
続々集まり、挨拶をしたり祝福
していただいたりしていました。

第三日 遣わされる

最後のセッションは、振り返
りと全般的質疑応答、今後の予
定の確認でした。私は、カリス
発足以前からあるアジア・オセ
アニアのユース同士のつながり
について質問しましたが、新た
にユース代表に選ばれた二人が

ローマのユース・コーデイナー
ターと連絡を取り合いながら、
すでにあるアジア・オセアニア
内のユースのネットワークを吸
収して明確化・活性化させたい
とシリルさんから回答をいただ
きました。

今回の出会いと交わり、コム
ニオを神に感謝し、聖霊によつ
てキリストに結ばれている兄弟
姉妹たちは再び東へ西へとそれ
ぞれの場所に遣わされていきま

した。

今後のカリス主催のイベント
に日本から参加することは、八
月にコタキナバルで開催される
預言的執り成し養成コース以外
へはハードルが高いかもしれま
せんが、それらのために祈り、
同じキリストの体に属する兄弟
姉妹の誰かが強められて神の栄
光を現してくださいと執り成す
ことはできません。身近なところ

では、日本の全国コムニオ奉仕
会でも、長年親しんできた「聖
霊による生活刷新セミナー」（
私も44年前、受洗した翌週から
初台教会で参加し、聖霊の満た
しを受けました）を「セミナー
『聖霊に生きる』」いう新たな
名称と内容でオンライン開催す
るため準備中です。コロナとい
う冬から聖霊に生きる春に、共
に一歩ずつ踏み出しましょう。

カリス規約から大陸コムニオ奉仕会に関する条項：

第12条 機能

大陸コムニオ奉仕会（以下CSC）の機能は、次のとおりである。

- a) 柔軟性に欠ける堅固な構造によってではなく、心の一致によって交わり〔コムニオ〕を造り上げる。
- b) カトリック・カリスマ刷新のあらゆる現実を招いて受け入れ、多様性の中の一致を生きる。
- c) 傾聴、共有、識別のための空間を造る。
- d) 養成を促進する。
- e) 全国コムニオ奉仕会（以下NSC）がまだ存在しない国にその設立を支援する。

第13条 構成と会議

- §1 CSCはアメリカ、アフリカ、アジア・オセアニア、ヨーロッパの4大陸ごとに設立される。
- §2 各CSCは、各国NSCの代表者1名、各大陸に存在する共同体ネットワーク代表者1名、各大陸に存在する福音宣教学校の国際ネットワーク代表者1名、各大陸内で活動する特定のミニストリーの代表者2名、30歳未満のカトリック信者2名からなる。
- §3 各CSC会議は、少なくとも3年に1回開催される。

第14条 選挙

- §1 各CSCは、7名からなる大陸調整チームを選ぶ。その機能は、CSCの活動を促進することである。大陸調整チームは、少なくとも年に1回会合する。
- §2 選挙は、祈りと識別の精神の内に行われる。CSCの各メンバーは、選挙で発言し投票する権利を有する。
- §3 大陸調整チームのメンバーの選挙については、無記名投票を行う。選挙が有効であるためには、投票権を持つ者の少なくとも50パーセントが出席しなければならず、当選には投票者の3分の2の賛成が必要である。
- §4 CSCのメンバーが役職を離れる場合、後任は他国の代表でもよい。ただし、出身の地理的バランスは考慮されなければならない。
- §5 CSCのメンバーは、3年の任期で選出される。連続して1回のみ更新可能である。

1) アジア・オセアニア大陸代表

(アジア2名、オセアニア1名)

1. Cyril John (インド)
2. Fe M. Barino (フィリピン)
3. Shayne Bennett (オーストラリア)

2) 大陸調整チーム

(上記の大陸代表3名に加えて7名)

1. Shayne Bennett (オーストラリア、調整チームのコーディネーター)
2. Cyril John (インド)
3. Fe M. Barino (フィリピン)
4. Anthony Lim (マレーシア)
5. Jun Cruz (フィリピン)
6. Satyaprakash Patiraj Yadav (インド)
7. Endie Rahardja (インドネシア)
8. Bernadette Beredico (カタル、書記)
9. Haruyo Oguma (日本)
10. Jerryboy Jacob Pereira(サウジアラビア)

3) 司祭・修道者代表(1名)

Fr. Ken Barker (オーストラリア)

4) 教皇庁認可共同体代表(1名)

後日バチカンが選出

5) ユース(30歳未満)代表(1名)

Satyaprakash Patiraj Yadav (インド)

6) ミニストリー代表(1名)

Fr Thomas Bobby Emprayil (インド)

7) カリスマ刷新共同体代表(2団体)

Couples for Christ (フィリピン)

Kkottongnae (韓国)

8) カリス国際コムニオ奉仕会のモデ

レーター候補者

Cyril John (インド)



アジア・オセアニアの東から西まで、カリス全国コムニオ奉仕会のある国は17カ国
(2023年3月現在)



初日の開催ミサ、コタキナバル大司教区ジョン・ウォン大司教様私邸聖堂にて。



最終日、参加者全員で記念撮影。
最前列左から3人目～5人目が、今回CCSCアジア・オセアニア大陸コーディネーターに選出された、
Mr. Shayne Bennet, Ms. Fe M. Barino, Chevalier Cyril John.

【今年開催予定の国際大会のご案内】

5月2日～5日

「執り成し手世界大会」

開催地 アフリカ・コートジボワール共和国ヤムスクロ

参加申込は3月31日で終了、1000人強が参加予定。

8月1日～6日

「ワールドユースデー リスボン大会」

カリスは毎回 WYD で何かしらのイベントを担当しています。

詳細は復活の主日後に発表されるそうですが、今年はコンサートを計画しています。

8月14日～19日

「アジアのための預言的執り成し養成コース」

開催地 マレーシア・コタキナバル
コタキナバル大司教区司教座聖堂
参加申込受付中

10月29日～31日

「カリス総会」

開催地 イタリア・ローマ

11月2日～4日

「カリス特別世界大会 Called, Transformed, and Sent (呼ばれ、変えられ、遣わされ)」

開催地 イタリア・ローマ (バチカン 聖パウロホール)

2022年4月からオンライン開講中のカリス総合養成プログラム (Integral Formation Program、全44コース、昨年12月時点で89カ国から2500人以上が受講中) の修了プログラムの一環として開催されますが、誰でも参加できます。

皆さんは、アズベリーのリバイバルをご存じですか。

米国ケンタッキー州のアズベリー・メソジスト大学では毎週水曜日の朝10時から大学の講堂で礼拝が行われており、学生たちは単位取得に必要なことからいつもそこに集まるのですが、二〇二三年二月八日はいつもと様子が違いました。聖歌隊が最後の合唱を歌い始めた後、簡単には説明できない何かが始まりました。学生がいつまでたっても講堂を去ろうとしなかったのです。彼らは、静かながら力強い超越的な感覚に襲われ、そこを

離れたとは思いませんでした。

そこに留まり、礼拝を続けたのです。そしてその礼拝はなんと夜を徹して続けられ、何十日も続き、他の大学にも飛び火し始めました。これがアズベリーのリバイバルの始まりです。このリバイバルについて、カリスのモデレーター、ピノ・スカフーロ氏が聖霊刷新関係者あてに手紙を出していますので、ご紹介します。

「アズベリーのリバイバルと私

すでにご承知のことと思いますが、二〇二三年二月八日、アズベリー・メソジスト大学(米ケンタッキー州)の一部の若者たちが、学生のための祈りの集いを企画しました。その日、穏やかで深い祈りの精神がキャンパスに浸透し、今日まで礼拝が途切れることなく続いています。時間が経つにつれ、アズベリー、近隣の町、他州、他国からも人々が参加しました。アズベリーは人口六千人ほどの町ですが、これまでに十万人

たちの祈りのグループや契約共同体での反響について」

ほどの人びとが経験したと言われています。CHARIS のメンバーや支持者の中には、この体験に参加するためにアズベリーに足を運び、それを目撃した人もいます。

「礼拝では、大げさな感情の発散はなく、祈りをリードする個人的なリーダーシップもない。」「まるで、みんなが集団で祈りを組み立てているかのようです。」「参加者のほぼ全員が、神の愛の臨在と信仰の活性化を経験したと言っています。」

同様の集会は、他の近隣の諸大学でも開催され、さらに他の国々でも開催されています。これらの

エピソードを完全に見極めるのは時期尚早ですが、確かなことは、神は私たちが神の現存と愛をこれまで以上に強く感じ続けることを望んでおられるということです。

カトリック聖霊による刷新では、このようなりバイバルと聖霊の注ぎのエピソードをよく理解していただきます。私たち自身が、一九六七年に米国ピッツバーグのカトリック校、デューケン大学で起こった聖霊の注ぎの実りなのですから。アズベリーのエピソードの後、

世界中の多くのカリスマ刷新グループにおいて、来るべき日々に向けて祈りと礼拝と賛美の集いが準備されています。

カリスマから皆さんへお伝えしたいのは、以下の通りです。― 私たちは、あなたが感じたインスピレーションに従うことを勧めます。

― 今、あなたも祈りながら、恵みの時を生きている兄弟姉妹と共に歩んでください。― 私たちは、聖霊がお望みのま

まに、お望みの場所でも、お望みの時に吹いてくださることを知っています。ですから、そこで起こっていることを同じように再現するのではなく、礼拝し耳を傾ける時間を造り、聖霊の働きのために空間を造ることが重要なのです。

― 私たちは、神との個人的な出会の恵みを求め続けましょう。― きつと神は私たちに多くのことを語りかけ、多くの賜物を与えてくださることでしよう。

― 上記のリバイバルのように、祈りを共同体のすべきこととしましょう。

― このようなイベントを企画する人たちが、常に識別力と慎重さを持ち、地元の教会との連帯のもとでそれを行うことができますようにと願います。

CHARIS (カトリック聖霊による刷新国際奉仕会)

モデレーター ピノ・スカフォーロ

：：：：：：：：：：：：：：：：：

きに、彼は席の前の方で集っていたフランス語を話す一同を目にはしていましたが、彼らがしていることに全く注意を払っていませんでした。ところが突然、

あの女性が彼の郷里の方言ではつきりと、主が彼の祈りを聞き入れ、彼の妻が癒されたと言語のを聞いたというのです。小教区の担当司祭はこれを聞きつけてやって来て、その男を司祭館に連れて行き、留守宅に電話をさせました。船乗りが家族と連絡が取れたときに、人々が泣き叫んでいるのが聞こえました。

異言のカリスマの二つの体験―

「ペンテコスト・トゥデイ」誌二〇二三年第二号の掲載記事

【預言的異言のカリスマ】

最近私は「異言で話すこと」にまつわる驚嘆すべき報告を耳にしました。これは、カナダのフランス語圏、セント・ローレンス運河沿いにあるカトリック教会の祈りの集いで起こったことです。

そのグループは、典型的なカリスマ刷新のやり方で活発に神

を礼拝・賛美していました。一人の女性が他の人々をさえぎる

ように声を上げ、誰にも理解できないと思われる音節を大声で発話していました。

聖堂の後ろで大きな嗚咽が始まりました。祈り会の幾人かのメンバーは何事が起こったのかと、後方に向かいました。泣いていた男性は中国国籍の船乗り

でした。彼の乗っている積載船は数日間、近くの港湾施設（埠頭）に係留されていたのでした。

中国に残してきたその男の妻は病気で、死の淵にありました。妻の状況で途方に暮れていたその船員は、彼女のために祈ろうとカトリック教会にやって来た

のです。教会の後ろ側にある暗い片隅から祈りを捧げていたと

「女房は今、亡くなったばかりなのか」と訊ねました。「いや、あなたの奥さんは死んでいない」との返事でした。実は15分ほど前に彼女は両目を急に開いたのです。彼女は昏睡状態から覚めて、すっかり元気になっていたのでした。

何ということでしょう！これは預言を伴った、しかも奇跡の効験を持つ異言のわかりやすい実例の一つです。言うまでもなく、その船乗りと妻、中国にいた家族、そしてあの小さなフランス語圏のカトリック教会の全員が神の力強い御力を確信するようになりました。

【異言による祈りのカリスマ】

私が主から受けた最も有益な賜物の中の一つは異言のカリスマであり、特に「聖霊による祈り」です。これはグループを築き上げるための賜物というよりも、個々人を築き上げるためのものなのです。

「同じように、聖霊もわたしたちの弱さを助けてくださいます。

わたしたちはどのように祈るべきかを知りませんが、聖霊ご自身が、言葉に表せないうめきを通して、わたしたちのために執りなしてくださるのです」(ローマ8・26²⁷)。

私は聖ヨハネ・パウロ二世教皇と共にその私的な礼拝堂でミサに与ったときのことをつぶさに思い出します。聖体を拝領したあと、教皇様は跪き台に向かい、そこに身を沈めると深い祈りの境位へと入って行かれたものでした。そしてすぐ後で、喉の深いところからうめき声を出し始められ、ときどき「理解できない単語」からなる短い音節をつぶやかれたのです。わたしは同席していたある人の方へ身をかがめて「教皇様が何を祈っておられるのか、聞き取れますか？」と尋ねました。するとささやくような小声でこう返答があったのです。「そうですね。まあ、お伝えしておきますが、(あの言葉は)ラテン語ではなく、イタリア語でもなく、確実に言えることですが、ポーラン

ド語でさえありません。」

聖霊による祈りは、普段から絶えず物を考える癖のある私のような人間にとってお詠(あつら)え向きの賜物だと思えます。聖霊による祈りは、もしあなたが望むならば、知性を「迂回」して、個人の魂を聖霊と深く一致させるのです。怖れや憤懣(ふんまん)、誘惑や疑いが私の思いを責め立てるときに、聖霊による祈りは、大嵐のさなかで私を支えてくださる聖霊と私が親密な絆を結べるようにしてくれるのです。

私はこうした現象それ自体にはさほど感銘を受けないのですが、御父に向かう祈り中で私に同伴してくださるほどに、私を愛してくださっている神の霊に圧倒されています。

このような祈りを長く続けていると、自分が平和と観想が支配する心の奥底へと引き入れられていることに気づきます。私の精神が把握できないものを私の霊が体験するのです。私が自分の知性では垣間見ることで

きないものを私の心は見つめています。私が論証によってはとも到達できない領域について、私の魂は悟っているのです。

「どのように祈るべきかわからない」ときに、自分がある意向のために御父のみ前で嘆願するのを助けてくださると、私は「呻きと言葉」の内に聖霊に信頼することができず。もし、私たちが過去数年以上にわたり何がしかを学んだとすれば、それは様々な出来事についての私たちの視座や理解、いや知識さえもが本当に制約されたものだということです。でも聖霊はよく知っておられ、私たちの心を御父のもとにどのように導くべきかをご存じです。

聖霊によって祈るときには、私は神が温かい心をお持ちになった人格的なお方であることが一層よくわかります。神がなさっていることを知解するということよりは、神がどのようなお方であるかについて認識するのです。それはあらゆる方法を駆使して御自身の栄光と、私たちに対す

る深い愛を啓示される神について一層自覚的になるといふことなのです。

*ジム・マーフィー氏は、一九七一年にアラスカで砂金の選鉱中に聖霊と個人的に遭遇しました。

米国の全国奉仕チームの議長、NARSCのユース担当委員会議長を務め、ICCRS会長にもな

り、CCRの世界規模の指導チームとしても奉仕を続けています。……

聖霊による洗礼は、私たちが聖三位一体の新しい体験へと覚醒させます

エマヌエル・マンスフィールド神父

『ペンテコスト・トゥーデー』誌・二〇二二年第二号から

「ご自身の恵みによつてわたしたちのうちに信仰を芽生えさせ、唯一の御父とその御父が遣わされたイエス・キリストを知るといふ新しいのちを私たちに得させるのは、ほかでもない聖霊なのです」(『カトリック教会のカテキズム』(以下CCCと略称)、六八四項)

毎年、典礼暦において私たちは「三位一体の祭日」を荘厳に祝います。この祝いは聖霊降臨祭直後の主日に行われます。神学的に言えば、これは聖霊降臨における聖霊の到来とともに「聖三位が完全に啓示され」(CCC七三二項)、神の各位格との関わりへの門戸が広く開かれるからなのです。フランク・シード(訳注・フランシス・シー

ド、オーストラリア出身の弁護士、作家、カトリック信徒神学者、米国で逝去)は、この神の「もつとも隠れた内奥」の啓示(CCC二二二項)を、「閉ざされた円環が突然開かれ、障壁が打ち倒され、神の広大な内的生命全体がわたしたちを招き入れる」ことであると描写しています。聖霊の到来は私たちがすべての真理(ヨハネ16・12-13)―父・子・聖霊としての神が、どんなお方であるか、という真理―へと導き入れ、洗礼を受けた私たちが三位一体の各位格との生ける関わりを知り、かつ体験することを可能にするのです。しかし、信仰の実践面においては多くのカトリック信者にとつて三位一体の主日は縁遠い教

義の一つあり、現実の生活にはほとんど影響がない真理と見なされることが多いのです。しかしラツインガー枢機卿(のちの教皇ベネディクト16世)は、三位一体の教えは単なる知的な概念であることを遙かに超えており、「…知的に考案されたものではなく、むしろ体験から生まれたものである」と述べています。三位一体の関わりの中で成長するという、この体験こそが「聖霊による洗礼」の恵みが過去五十年余りの間、何百万の人々にとつて人生の大変革をもたらした現場なのです。

カンタラメッサ神父(現在は枢機卿)は、この体験を要約して、このように述べています。「聖霊の臨在が新たな力強い仕方で、例えば、いわゆる『聖霊による洗礼』において感じられるときにはいつでも、それに巻き込まれる人々は三位一体の新たな発見に間違いなく到達します。そして、その発見は体験的で生き生きしており、抽象的な神学の問題ではありません。祈りが三位一体的になるのです」。最近年に教会から「教会博士」の称号を授与された聖イレネオは、『使徒たちの使信の説明』の中で私たちの祈りにおけるこの三位一体的な運動について、こう述べています。「神の霊を持つ人はみことばである御子のもとに導かれ、御子は彼らを御父にささげ、御父は不死のいのちを彼らにお与えなります」(CCC六八三)。カンタラメッサ神父は続けて「家族」という寓意を使ってこう述べます。「一つの家族に受け入れられ、家族のメンバーが私たちを愛しており、彼ら(のお一人)が本当に熱心

に他のお二方に私たちを紹介したいと望んでおられるという感覚が私たちにはあります」と。

「聖霊による洗礼」のこの体験は、しばしば、洗礼において

「神の子とされた」恵みが生き生きしたものとなり、今や私は三位一体のそれぞれのお方と独特かつ具体的な形で関わる事ができることを意味しています。

御父は私の必要を気遣い、御自身の子供としての私に配慮されるお方として体験されます。御子としてのイエスは、私を救い出して御父に依存しながら生きる仕方を教示しながら、生涯を通じて私と一緒に歩む兄です。そして聖霊は私を鼓舞しながら、

私の罪を指摘し、あわれみと絶えざる変容の恵みを体験できるように、私を回心へと導く弁護者なのです。

現代世界において「聖霊による洗礼」が果たす役割を神学的に省察するにつれて、私たちは、神を位格的にあるがままに、つまり、一つの神的本性を分かち合いながら全く異なる三つの位格として認識するように私たちが助ける恵みとして、「聖霊による洗礼」の不可欠な重要性を認めざるを得ません。このようないにしに三にまします神の体験は、私たちに自分たちが住む、断片化し分断された世界の中で、神の「交わりとしてのいのち」

に思いを向けるよう呼びかけており、その恵みよって努力を重ねることによって、唯一無二のユニークな個人としての私たちの様々な相違にもかかわらず、より大いなる相互の一致の内に生きるように招いているのです。新しい千年期の始まりにあたって、聖ヨハネ・パウロ二世は、すべての信仰者に、この三位一体的な神秘を生き抜くことにおいて刷新されるようにと呼びかけました。「交わりの霊性は、

まず何より、私たちのうちに住んでおられる三位一体の神秘に向かう心のまなざしを指し、その神秘の光を、私たちのそばにいる兄弟姉妹の顔の上にも輝く

ものとして見る事ができなければなりません」(使徒的書翰『新千年期の初めに』43項)。聖霊降臨における「聖霊の注ぎ」は根本的に、私たちが「交わりとしてのいのち」を生きることへと導くものなのです。

*筆者エマヌエル・マンズフォード神父は、米国ニュージャージー州パターソンにある聖ミカエル修道院に在住する「刷新の男子フランシスコ修道会(CFR)」の会員であり、現在は同修道会会員のための養成担当主任を務める。神学院での修士論文のテーマは「聖霊による洗礼―カトリック教会から見た視点の研究」でした。

園における苦悶 (マタイ26・36―46、マルコ14・32―42、ルカ22・39―46、ヨハネ18・1―11) カルロス・デスーザ (ムンバイ) による論考 『カリスインディア』誌二〇二三年三月号に掲載

聖アウグステイヌスは、新約

聖書は旧約聖書のうちに隠され、旧約聖書は新約聖書の中で啓示されていると述べています。

【エデンの園―ゲッセマネの園】

(a) 第一のアダムはその生涯を

エデンの園で始めたが、新しい最後のアダム(一コリント15・45)であるイエスは、今や地上での生涯の終わりにゲ

従順

(d) アダムは誘惑に屈服した―キリストは誘惑を克服した。
(e) アダムは神の御旨を破った―キリストは神の御旨を果た

贖いと克服

(h) 楽園はアダムゆえに失われた―楽園はキリストによって取り戻された。
(i) アダムは神から離反し死を

もたらした—キリストはわれわれを神と和解させ、永遠のいのちを獲得した。

- (j) アダムによる経験はまず快樂と喜び、それから苦しみ—キリストによる経験はまず苦悶、それから復活による栄光
- (k) アダムは神から身を隠す—キリストは神と敵対者に対して自らを現わす。

- (l) 獣が屠られ、皮の衣を作るために血が流された（創世記3・21）—キリストによって血が流され（ルカ22・44）汗が血の滴りのように落ちた。

- (m) 神はアダムをエデンから追放するために天使を派遣した（創世記3・24）—神はキリストに仕えるために天使を遣わされた。

- (n) 剣が引き抜かれた（創世記3・24）—引きぬかれた剣がさやに戻された。

1. イエスは弟子たちに彼とも同行し、自分たちのためにも祈るように求めます。

イエスは私たちを必要としません、私たちに彼の祈りの仲

間になることを望んでおられます。彼は私たちに人類の救いのために彼と同行して欲しいのです。執り成しの奉仕は人目につきスポットライトを浴びる中心的な奉仕ではありません。誰もあなたが同行しているのを知らず、誰もあなたが祈っているのを見ることがもない裏方の奉仕です。それは時として挑戦的で困難な、無味乾燥な奉仕なのです。

果たして私は、自分の安楽な境地から抜け出して、執り成し手になろうとしているでしょうか？

2. イエスは深く悲しまれ、死ぬほどまでに嘆かれます。

彼は、十字架にいたるまで担おうとこの世の罪の重荷を経験しています。果たして私はこのような重荷をイエスと分かち合っているのでしょうか。私の悲しみは表面的で、浅薄で、うわべのレベルに過ぎないのではないのでしょうか？

あるいは、私が自分自身を否定し、自分の十字架を取り上げて、死に至るまでもイエスに従おうとしていることは真実で誠実でしょうか？

3. イエスは苦しみの杯を体験されました。

苦しみは私たちの生活の中の決然たる現実です。何びとも苦しみを逃れることはできません。それは物理的、情緒的、精神的、あるいは心理的なものでありえます。苦しみは理解されることが出来ませんが、生きぬかなければならない神秘です。

苦しみはごみのようなものです。私たちはそれを見たり、匂いをかいたり、触れたり、味わったり、それと一緒に暮らすことを好みません。しかしながら、ごみは、植物や穀物の成長にとって優れた肥料であることは明らかです。同じように、苦しみは、キリスト・イエスにおける私たちの霊的な成長にとって優れた肥料であることは明らかです。

4. イエスは父の御旨を果たされました。

その苦しみの最中であって、イエスは神の御旨を行うために、ご自身をあげ渡しました。わたしの食べ物とは、私を遣わされた方の御旨を行うことであり、

その業を完成することである（ヨハネ4・34）と。十字架上でイエスは、「成し遂げられた」と言うことができました（ヨハネ19・30）。イエスはまた、わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためであるとも言われました（ヨハネ6・38）。自分自身の生活の中でまさにしばしば

私は、自分に好ましいことをしようとしています。私は、御国が来ますように、でも私の思いがなされますようにと祈っています。

聖ヨハネの福音書の中では、現実的な苦悶は言及されていません。聖ヨハネはイエスを、逮捕以前の状況を全面的に制御している人として描いています。

彼らは灯火や松明を持ってやってくる。灯火や松明は人工の光です。太陽や月の光は自然の光です。そしてイエスは世界を照らす超自然の光です。灯火や松明をかがげて世の光であるイエスに打ち勝とうとしている様子を想像してみましょう。

彼らはナザレの人イエスを探しに来て、「わたしである」神に出会うのです。というのは、イエスが「わたしがその人である」と言われたとき、彼らは後ずさりして、地面に倒れ伏すからです。しかし、ひとが力強い神の面前にあつて大地に倒れ伏すのは当然のことです。

イエスは容易に逃げ出して、周囲の暗闇に隠れることができたでしょう。彼はそのようにはせず、宗教や統治の権威者たちに対してご自分を呈示します。そして彼らに、わたしを捜しているのなら、他の者たちを去らせるようにと告げています。イエスはご自分に属する者たちの

安全を計る真の指導者です。自分の群れの安全を計る真の羊飼いなのです。

【予表論：イエスは旧約聖書のヨセフを前兆とする新しい啓示です】

a. ヨセフは父親ヤコブの愛する息子であった―イエスは御父の愛する子であった。

b. ヨセフの兄弟たちは彼を妬んだ―宗教上の権威者たちはイエスを妬んだ。

c. ヨセフを殺そうとした―イエスを殺そうとした。

d. ヨセフを銀貨20枚で売り払った―イエスを銀貨30枚で売り渡した。

e. ヨセフはユダによって売ら

れた―イエスはユダによって売られた(ギリシア語の「πωλο」とヘブライ語の「מָכַר」は同じ名前である)。

f. ヨセフは異邦人に売られた―イエスは異教徒であるローマ人に売られた。

g. ヨセフは偽つて誘惑の嫌疑をかけられた―イエスも権威者たちから偽つて非難された。

h. ヨセフは牢獄に送られた―イエスは死刑を宣告された。

i. ヨセフはファラオの側近に起用された―イエスは死者のうちから立ち上がり御父の右の坐についた。

j. ヨセフは飢饉のあいだ自国へ早く、準備しておいた香料を持って墓に行った。(ルカ24・1)

(d) その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、

イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。(ヨハネ20・19)

民と異邦世界の両方に穀物を提供した―イエスはユダヤ人にも異邦人にも救いをもたらした。

k. ヨセフはパンの基となる小麦を提供した―イエスはご自身の中から、今日にいたるまでも天から降る生けるパンとして、提供しておられる。

それゆえに、私たちはイエスの苦難、ゲッセマニの園の体験において彼と一体化することが可能であり、その結果として、私たちが彼とともに、彼の復活において栄光に与るのです。

なぜ福音記者たちは、「週の初めの日」というこの語句を用いたのか。これは私たちに、創造の物語を告げる旧約聖書を、そして神が七日目に休まれたことを思い起こさせます。それは安息日であり、そしてその後に来た新しい週が始まります。イエスの復活は私たち皆にとって新しい始まりなのです。

イエスの復活

カルロス・デスーザ(ムンバイ)

『カリスインディア』二〇二三年四月号掲載の記事から

四つの福音書のすべてにおいて、復活物語のタイミングは、「週の最初の日」という共通の文言で表現されています。

(a) 安息日が終わり、週の初めの日の明け方に、マグダラのマ

リアともう一人のマリアが、墓を見に行った。(マタイ28・1)

(b) そして、週の初めの日の朝ごく早く、日が出るとすぐ墓に行った。(マルコ16・2)

(c) しかし、週の初めの日の明

く、準備しておいた香料を持って墓に行った。(ルカ24・1)

く、準備しておいた香料を持って墓に行った。(ルカ24・1)

創世記においては、それは世界の古き自然的な創造でしたが、新約聖書においては、それは復活されたイエスにおける新しい創造なのです。

創造の物語では、最初のアダムが置かれたのは、エデンの園でした。聖ヨハネの福音書においては、新しいアダムである復活されたイエスは、最初の証し人であるマリア・マグダレナによって園で目撃されたのです。

最初の園では、アダムは破滅と死をもたらしました。第二の園では、イエスは私たちに希望といのちを与えます。イエスの復活は私たちキリスト者の信仰の第一の最大の中心的神秘です。それは人類史におけるユニークな出来事なのです。イエスの復活ほどの偉大な出来事は全く存



在しませんでした。それは、イエスの生涯においても特有な出来事です。イエスの復活なくしては、イエスの物語は不完全であったでしょう。

福音書の中では、イエスが人々を死から生き返らせた三つの事例が見られます。

- (a) **ナインのやもめの息子**。それから彼は近づいて棺に手を触れられると、担いでいる人たちは立ち止まった。イエスは「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と言われた。すると死人は起き上がってものを言い始めた。イエスは息子をその母親にお返しになった。(ルカ7・14-15)
- (b) **イエス、ラザロを生き返らせる**。こう言うことから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。(ヨハネ11・43)すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。
- (c) **イエス、ヤイロの娘を蘇らせる**。彼は子供の手を取って、「タリタ、クム」と言われた。これは、「少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい」とい

う意味である。少女はすぐに起き上がって、歩きだした。もう十二歳になっていたからである。これには人々は完全に驚いてしまった。(マルコ5・41-42)

結局のところ、イエスが蘇らせたこれらの人々は、再び亡くなりました。けれども、イエスの復活は、通常の生き返りではありません。それより以上のものなのです。それは、私たちが宣言する信仰の最高の神秘です。

(a) キリストは死んで復活しましたが、再び来られます。(b) 死にゆくあなたは私たちの死を打ち滅ぼし、復活されるあなたは私たちの命を回復されました。私たちが栄光のうちにお出ください。これは、私たちが信仰告白して実行し、告知して、次の世代にそれを引き継ぐべき神秘なのです。

もしも私たちがイエスの復活を信じないなら、私たちの宣教も信仰も無駄なのです。私たちの信仰はむなしく、私たちは今もなお罪の中にあることになりま

す。もしもこの世の生活のためだけにキリストに望みをかけているのだとすれば、私たちはすべての人の中で最も惨めな者です。(一コリント15・12-19)

イエスの復活がユニークなのは、イエスが人類の一員として神の臨在と力と栄光の中に入って来られるからなのです。このようにしてイエスは、私たちもまた、神の臨在と力と栄光の中に入ることを可能にしたのです。私たちの究極の安らぎの場所は、この地上の地理的な場所ではなく、墓場でもなく、神の臨在のうちにあるのです。このようなことは、私たちは子供のときに要理クラスで教えられました。誰があなたを造ったのですか。神様が私を造ったというのがその答えでした。そして次の質問は「なぜ神様はあなたを造ったのですか」でした。そしてその答えは、神様を知り、愛し、奉仕し、一緒にいつまでも幸せでいるために、でした。アーメン。